

工場紹介

木製ドアトップメーカーの道内拠点

松永軽金属工業株式会社札幌支店

所在地 札幌市北区新琴似12条4丁目

資本金 3,200万円

従業員 45名(札幌市)

社名から受ける印象は、アルミニウム又はその関連製品のメーカーといったところで、木材とは無縁のように感じられるが、実は木製ドアのトップメーカーで、同社製品のMKCセンチュリードアなる名称は広く知られるに至っており、社内における北海道での事業量比率も6割を超えて次第に高くなっている。

去る1日(昭和55年6月)、札幌支店を訪れ、支店長の松永寧氏に木製ドア業界についての見解、会社の沿革、事業内容などについて尋ね、市内の工場を案内していただいた。

業界事情

木製ドアがマイホーム熱の波に乗って一般に広く普及する勢をみせ始めたのは今から10年ほども前になる。それは若干の経済的ゆとりを持つようになった庶民の願いを、商業資本が鋭く感知し夢をふくらませた結果とも言える。かくして、昭和50年から51年にかけて木製ドアはその最盛期をむかえ、100社を超える大小の企業がこの製品の製造販売に加わったという。

ブームは、メーカーにひとときの利益を追わせる。表面的な一般の需要に単純に応えた即製の製品は、木製ドアにとって最低限必要な性能維持期間を保つために必要な技術的配慮も与えられぬまま、ひとときの美しさ、優しさ、心の安らぎをセールスポイントとして生産枚数が増加していったのではないかと想像する。しかし、その反省期は当然ながら時を経ずして到来した。狂い、塗膜の欠落に代表される欠点の発生が顕在化するに従って、メーカー数は急激に減少し始め、業界での淘汰は急速に進行した。現在30社ほどになっている業界は、実力派台頭の時代に入ったと言えよう。

会社の歩み

建築金物問屋のしにせである株式会社松永寿平商店(新潟県三条市大字下谷地字割町)は三協アルミの枠を仕入れて、アルミニウム筋板玄関ドアの製造販売を事業の一部としていた。社長の寿平氏は世の高級化の風潮から木製指向が強まると判

断し、昭和49年2月、全額出資の子会社としてこの会社を設立し、木製ドアの製造販売にふみ切る決意をした。技術と登録商標の「センチュリー」をKK東京ベッドから通常実施権及び通常使用権として譲り受けることになったのもそのきっかけとなった。

会社設立と同時に札幌支店及び三条営業所を開設し、玄関ドアの製造を開始した。製品は高級玄関ドア、高級室内ドアのほかその後天井器材及び住宅機器に範囲を広げ、開設後の営業実績をみると、売り上げは51年4億円、52年6.4億円、53年7.2億円、54年12億円、55年15億円(見込み)となっており、その間に51年10月東京営業所(その後支店)、53年4月北陸営業所、54年6月函館出張所を相次いで開設している。

全製品のうち木村関係が7割を占め、その他はアルミニウム、プラスチック製であり、道内の取扱高は6割に達している。品目別売り上げの内訳は高級玄関ドア40%、高級室内ドア40%、その他20%で、高級玄関ドアのうち木製とアルミ製の割合は35:65、高級室内ドアは100%木製である。札幌支店長の寧氏は寿平社長の次男で、32才の若さに溢れた実業家というタイプであった。

高級玄関ドア

新琴似工場はアルミドアを製造している。ポリエチレン板の両面にアルミ板をサンドイッチし、断熱しているため著さ寒さが内部に伝わりにくく

なっている。アルミ板表面は電解発色のため耐光性が強く、アルミの独特のヨーロッパ調豪華さを出しているのが特徴ということであった。アルミ玄関ドアは54年春から製品に加わったものであるが、急増し今では玄関ドアの主流となっている。

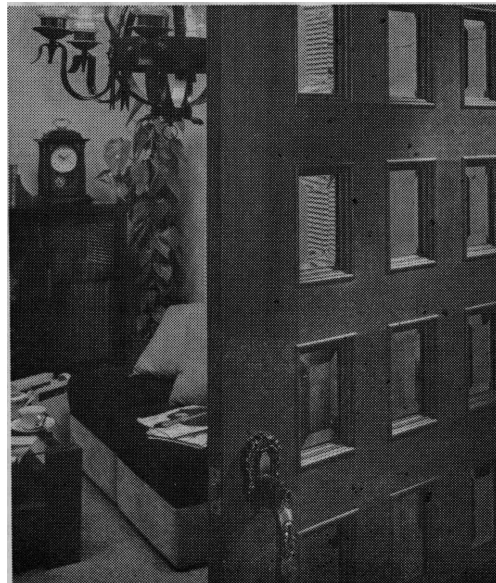
木製玄関ドア本体の樹種は昨年までゴールデンナト（東南アジア産）を使っていたが、その輸入が途絶えたため今年の樹種はアガチスとなっている。すべて厚物木材（ムク）を用いた構成であるので、狂いや寸度変化による欠点発生防止に技術の重点が置かれている。含水率8%まで乾燥した材をシーズニングにより10～11%にまでもどした素材が原料となっている。この原料の保管は北炭農林KKに委嘱し、必要に応じ工場に運搬加工する。木取りで重要なことは、そりの発生が内側にむけて起こるようにすることと、組み立てをダボ構造としたことであった。

このように素材を加工して出来たドア本体は、昨年までは更に防虫、防腐及び紫外線吸収オイルで木材を保護した後、ビヒクルの少ない超耐候性オイルに浸せきして仕上げしており、表面に塗膜を持たない製品にして、ドイツ製の補修液とセットにして販売し、2年間のアフター保証をつけていた。しかし、この昨年までの化粧法は今年に入り、樹種がアガチスになったときから変更され、ブタジェン塗装（一液性、商品名は油化ファイン＝三菱油化製）に切り換えられた。その理由は、オイルの表面塗布ではやはり光沢性が優れないため一般受けが今一つ不足していると感じたことと、ブタジェン塗装が二液性ウレタン塗装よりも高価であるが、はく離やクラックが生じずらく、耐候性が高いことであるという。

木製玄関ドアの生産は、一時は日産500枚にも達したが、現在は相当の部分をアルミ製にゆずり、180セット/日と落ち付いた状況になっている。木製ドアを玄関に使用するには、十分広いポーチをとって雨が当たらないようにし、また南、西などの方向からくる強い日光を受けない等の配慮が必要のように思われる。

高級室内ドア

同社41条工場（北41条東9丁目）及び38条工場（北38条東15丁目）は、室内ドアの製造をしてい



る。新潟県三条市の下谷地工場も室内ドアを作っている。現在のところ主力は北海道にあるが、今後本州方面が伸びてくると予想していた。

ムクの玄関ドアとは異なり、フラッシュ構造で現在の生産枚数は3,000セット/月ということであった。ドア本体は新日本コアKK納入によるロールコア合板で、鏡板とする部分の穴をNCルーターを使ってあけ、セソ又はチークの突板を框状に張って表板とし、中心框材はムクを使用している。枠材はシナ合板集成材でKK米子組からのものが使われていた。鏡板をはめ込み糊付けした後、必要な金具を取り付けて完成する。木製玄関ドアの売り上げが伸び悩んでいたなかで、室内用木製ドアは売り上げ増を強めている。最近ではドアユニットの比率も高くなっており、アーチ型の枠の製造も開始していた。

その他

以上のドア関係で売り上げの8割を占めるが、残りは玄関引戸、天井器材、収納設備（鏡箱、収納箱）などが売り上げに加わってきているとのことであったが、これらは道内にある工場の製品ではなかった。

多忙な業務のかたわら、誠心誠意事業の説明に当たってくれた支店長に心より感謝し、木製ドア、MKCの発展を祈って筆をおく。

（林産試 種日記）